

## グローバル人材育成への取り組み

～ESDを通して地域を大事にし、  
世界に思いをはせる小学生の育成を目指して～

富士市立岩松北小学校 加藤賢一

## ●研究実践のねらい●

今の社会において、グローバル人材の育成は急務である。ただ外国語を流暢に話せるだけではなく、世の中の情勢を世界規模で考えていくことで本当のグローバル人材になる。小学校現場では、どのような教育をしていけば世界に通用する子どもが成長していくのかを考えなくてはならない。本校で行ってきた ESD（持続可能な発展のための教育）を取り入れた活動がグローバル人材育成につながるものと考え、その実践の一部を紹介する。

## はじめに

平成23年度から外国語が小学校現場に取り入れられるようになり、5年目を迎えている。外国語を小学生のうちに学習することでコミュニケーション能力の素地と初歩的な英語の運用能力を養っている。しかし、これだけでは、グローバル人材の育成はできない。文部科学省は、グローバル人材に必要な要素として、以下の三つを位置づけている。

- ① 学力・コミュニケーション能力
- ② 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- ③ 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

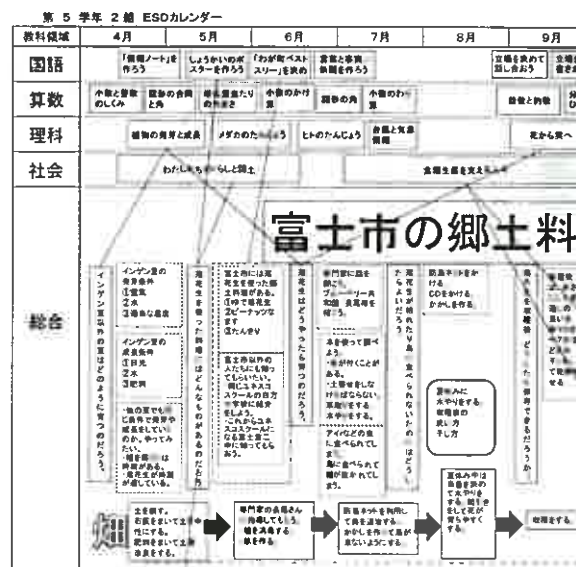
本校は、平成23年度からESDを研修の柱に据え実践を重ねてきた。1、2年生では生活科、3年生から6年生までは総合的な学習の時間（本校では「けやき学習」という）を中心に取り組み、平成25年度にユネスコスクールに認定された。ESDの育もうとしている力には、多様性の尊重や人間の尊重に代表される持続可能な発展に関する価値観、多面的かつ総合的なものの見方などの体系的な思考力、コミュニ

ケーション能力、などグローバル人材育成の求めているところと重なる部分が多い。また、学びの視点を、世界に広げることや20年後にこうあつてほしい世界をイメージして今を見つめることは、ESDの大きな特徴である。つまり、ESDの考え方を取り入れた学びをしていくことが、グローバル人材育成につながると思われる。

## 実践内容

## (一) けやき学習とESDカレンダー

本校のけやき学習は、ESDの考えのもと、教科や領域、家庭や地域、過去や未来と今をつなぐことを合い言葉にしている。そして、子どもの思考の流れや関心に沿った単元構想をクラス単位で考え実践している。地域や世界に目を向け、生活の中から課題を見つけ、その課題を自らの手で解決し、さらに発信していく。けやき学習は、さまざまな教科と関連させ、ダイナミックかつゆったりと時間をとって進めている。自分たちが、調べてみたいこと、疑問に思ったことを、自分たちの手で解決していくことが、将来予期せぬことが起こったときに、適切に対応する能力へと発展していくと考えている。



また、クラスごとで「ESDカレンダー」というものを作成している。これは教科横断型の学習に、学習効果を高めるとともに、教育活動全体でESDを進める意識を高めることになる。また、年間の見通しをもつことができるため、ねらいを十分に達成する活動になる。子どもの思考の流れに応じた構想を、余裕をもって変えていくためにも有効である。